

# POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」

第20号 1992. 10. 09

発行

北海道ポーランド文化協会

〒060 札幌市中央区南2西2

河合楽器製作所北海道支社内

電話 011-231-8661

FAX 011-221-4936

## 第一七回 例会

### 講演会とビデオ映写

### 「ポーランドの女たち」

【講師】 安藤 千鶴子氏

【日時】 十月二十日(火) 午後六時半より

【会場】 教育文化会館 小研修室A(北一条西一三丁目)

### 講師のプロフィール紹介

本間 富雄

「ドキュメンタリー・女が描く女の肖像——日本・ポーランド」というテレビ番組が、テレビ朝日系全国放送で流されたのは今年の二月十一日であった。安藤さんは、この企画、制作、現地ロケなど一貫してプロデュースされた。私が安藤さんと知り合ったのは、今から二十年ほど前である。

当時、HBCでは、自主制作番組「テレビ青年会議」というのを企画し、第一回目は「私にとって、ふる

さととは何か」というテーマで、三人の講師のうち、堂垣内尚弘氏が、生まれ育った北海道について語り、私が、外から北海道にきて、住みついた立場で語り、映画監督の山田洋二氏が、いつも放浪しながら故郷を偲ぶフーテンの寅さんの見方で故郷を語るといふもので、それについて五十人の青年がスタジオで討論した。あれから二十年、安藤さんは、今、北海道放送のアナウンス部長として活躍し、特に教育・教養番組では、良い仕事を残されて来ている。今回の企画は、彼女が数年前から暖めていたもので、昨年、民教協(財団法人・民間放送教育協会)のコンクールに応募され、全国十九の番組企画

の中から、最優秀の企画として選ばれたものである。その基金一、三〇〇万円をもとに、全国ネットの番組を制作されたものである。ポーランドには昨年七月から九月にかけて二回行って、ポーランド国営放送の協力を得て完成した。現地では、様々な異文化ショック?に驚いたり感心したりしながら、ロケを行ったそうである。今回は特にその裏話が聞けそうである。貧しくても、どんな逆境にあっても、楽天的で、酒と音楽と女を楽しむ男達。時間にルーズだが手違いが生じて「ヤコシト、ベンジエ(何とかなるさ)」と、切り抜けるおおらかさ。日本の放送局のように秒単位で仕事をし、胃潰瘍が職業



女が描く 女の肖像 ~日本・ポーランド~

病になっていく国柄から見れば、お  
手本にしたい人達である。今、HB  
Cでは、「ヤコシト、ベンジェ」が  
流行語になっているそうである。  
ポーランドでは今、緊縮財政で、  
国营放送の合理化が進み、職員が七  
千人から半分に減らされ、担当者が  
始終変わり、安藤さんは、打ち合せ  
や進行にずいぶん苦労されたよう  
である。

いつの時代でも、戦争や経済不況  
のしわ寄せは、最初に女性から始ま  
り、最後まで女性の肩にのしかかる  
のが通例である。どんな境遇の中  
でも、けなげに生きているポーランド  
の女性達の明るくしたたかたか、聡明  
な生きざまを話してみたいと安藤さ  
んは言う。

ポーランドの人達は、全体に親日  
的で日本に深い関心を持っているが、  
資料的に新しいものがほとんどなく、  
その認識は、キモノ、ゲイシャなど  
のイメージで、日本を考えていると  
言う。

今後の交流は、今、何が起きてい  
るのか、相互に新しい情報・資料を  
交換し、現実の正しい認識の上に両  
国民の友情を育てることにありとい  
うのが、安藤さんの願いでもある。

かつての戦争で、共に苦しい時代を  
生きてきたポーランドと日本の女  
性たちにスポットをあて、両  
国の女性プロデューサーが、  
それぞれ異国の女性たちの  
歩みを見つめます。



# 北海道ポーランド文化協会

## 第六回 総会

【日時】十一月九日(月) 六時三十分より

【場所】すみれホテル(中央区北一条西二丁目)

### ■内容

- 一 総会
- 二 ポーランドの短編映画上映
- 三 懇親パーティー

\*\*\* ピアノ演奏

\*\*\* 会食

【会費 三千元】

後日、往復ハガキで出欠を取ります。予定をあけておいて  
是非ご出席下さい。

# ポーランドで見たこと感じたこと

——三年ぶりの里帰り

熊倉 ハリーナ

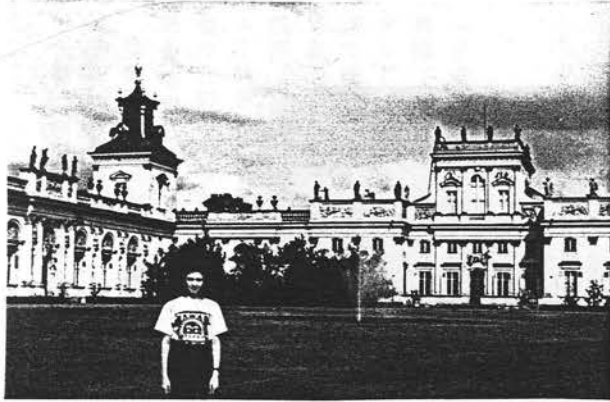
ポーランド語講習会の講師をして下さっている熊倉ハリーナさんが二人のお嬢さんとポーランドに行つてこられました。三年ぶりの帰郷とのことで、いろいろお話を伺いました

◇三年ぶりのポーランドは、いかがでしたか。  
町全体が、色とりどりになって、にぎやかな感じを受けました。人々の服装も、カラフルになりました。品物は豊富になり西側の製品も色々入って来ています。しかし、物価は高い。

娘の靴を一足買いました。イタリア製で値段は三十八万ズロチでした。(ポーランド製は二十万ズロチ位)ポーランドの人々から見るととても高価です。現在、ポーランドの人々の平均月収が、二五〇万ズロチですから。

電器製品は、もっと高い。ポーランド製の掃除機で、一二〇万ズロチ。電子レンジは、月給約一カ月分

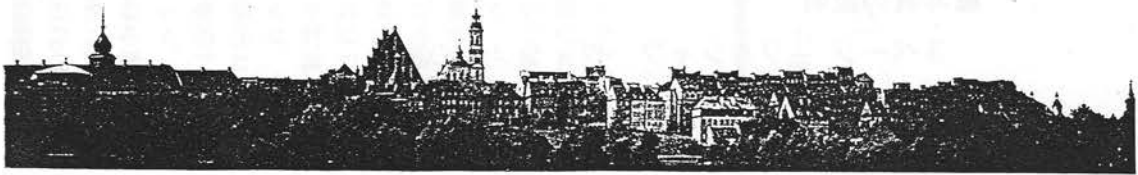
の二五〇万ズロチです。しかし、買物にクレジットカードを使えるようになっていました。以前は欲しいものがあっても物がなくて手に入らなかったが、今は欲しいときに自由に入れる。少し高くても色々な中か



指揮 カジミェシ・コルト      ピアノ 遠藤郁子

## ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

WARSAW PHILHARMONIC ORCHESTRA



ルトスワフスキ: **葬送音楽** (ベラ・バルトーク) (追悼のために)

W. Lutoslawski: Muzyka żałobna

ショパン: **ピアノ協奏曲第2番** へ短調 作品21

F. Chopin: Concerto for piano and orchestra No. 2 F-moll op. 21

ベートーヴェン: **交響曲第6番** へ長調 「田園」 作品68

L. van Beethoven: Symphony No. 6 F-Dur "Pastorale" op. 68

'92

**11/17** 6:30開場 北海道厚生年金会館  
7:00開演 大ホール(中央区北1西12)

S¥10,000 A¥8,000 B¥6,000 C¥5,000 (税込 全席指定 会員10%引)

主催: 北海道新聞社 道新スポーツ uhb FM北海道 道新文化事業社 労音・札幌音連 北海道芸術後援: 札幌市札幌芸術委員会 三木シヨウロ協会北海道支部 SFA札幌・アート協会 (財)札幌芸術アソシエーション 北海道ポーランド文化協会 北海道大使館 協賛: グンゼ株式会社

お申込み先/

北海道芸協 ☎261-2388

北海道芸術鑑賞協会 〒060 札幌市中央区南2西5シモデビル2F 受付時間 平日11:00AM~7:00PM 日・祝日はお休みです。

託児室 ☎210-6660 札幌市中央区南2西5シモデビル2F



ら選んで買えるということの方が良い。

外国料理のレストランも沢山出来ていました。仏・伊・日など。

ワルシャワに「つばめ」という日本レストランが出来ました。ホテルのレストランでなければ、そんなに高くない。しかし、あまり人が入っていない。以前は、並ばなければならなかったのに。これは、レストランが沢山出来たということではなく、生活全体が苦しくなったのでレストランにあまり行かなくなったということ。昼食にレストランに入りましたが、サービスがとても良くなりました。

◇教育についてはどうですか。

以前は、社会主義についての授業があったが、今は、無くなりました。しかし、この頃は宗教（カトリック）が強くなり授業に入ってきました。授業に宗教の事を入れる必要はないと思う。大きな町では宗教の授業を受ける受けないは、自由を選ぶようになった。小さな町では、その授業に出ないと噂になったりして自由がないらしい。宗教は個人的問題なので、全校で取り入れることはないという知識人もいます。今、問題になっています。

◇その他に何か問題になっていることがありますか。

社会主義の時、女性も働いている人がほとんどだったので、女性の力

が強くなり妊娠中絶は自由でした。しかし、今は、カトリックが強くなったので、中絶を禁止しようとする法案が提出されています。違法行為



■写真の説明

3 ページ ワルシャワ ヴィラノフの宮殿

4 ページ ハリーナさんの故郷 クラシニクで

をした本人と医師は五年の刑を受けるとい内容です。でも、この法案は女性が反対してまだ通っていない。ポーランドには他の宗教の人にもいるのに法律で決めてしまうのはおかしいと思う。

一方、ポーランドの人は外国に出やすくになりました。西側へ向かうエクスプレスが沢山出来ました。ポーランド国内もホテルが増えて部屋も取りやすく旅がしやすくなりました。バスポートを取れば、どこへでも自由に出入れるということが大切です。

ハリーナさんからポーランドのお話を伺いながら、国に規制される事なく自由に考え、行動出来るということ。やはりすばらしい事なのだ。と改めて実感させられました。

△記録 清水保子▽

▼前回の会報一九号の印刷が悪く見苦しいものになりました。お詫びして、改めて印刷しなおした見易いものを同封いたします。

「ポーレ」編集委員会

斎田道子・清水保子

吉田 宏

【連絡先】621-1738（斎田）

POLE 第 20 号(1992.10.9)目次

〈第 17 回例会〉講演会とビデオ上映会「ポーランドの女たち」(安藤千鶴子、1992.10.20)のお知らせ、本 間富雄「安藤千鶴子氏のプロフィール紹介」.....	1
第 6 回総会(1992.11.9)のお知らせ.....	2
熊倉ハリーナ「ポーランドで見たこと感じたこと～3 年ぶりの里帰り」、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦 楽団演奏会(1992.11.17)のお知らせ.....	3